特別活動5　神輿復活プロジェクト

～１０年前に途絶えた神輿を復活させよう～

９月１４日（金）、３年生の総合的な学習の時間、いよいよ「かほくまつり」に向けての取組がスタートしました。今年の取組の中心は「神輿」の復活です。かつて、かほくまつりで担がれていた神輿を中学生の手で復活させようというプロジェクトです。これは、鹿北の文化を再興しようとする取組でもあります。

これから毎週、地域の方々にご指導いただき、神輿とは何かから、神輿の担ぎ方、手拍子のし方などを教えていただきます。神輿を担いでみて、息が合わないと肩がとても痛くなります。思っていた以上に難しいことを知らされました。

神輿の復活　１１月１７日

１０時の開会式での披露、そして１３時には本格的に神輿の復活を成し遂げました。神輿の両側にはたくさんの方が来てくださり「ソイヤ！ソイヤ！」の大きな声。胸が熱くなった瞬間です。地域の方々、来場者の方々の笑顔とともに会場が最高に盛り上がり、思っていた以上に大きな感動の場面を中学生が創り出してくれました。今年も、中学生が地域貢献を通して大きく成長し、また、３年生が、１・２年生にとって大きな目標・壁、そしてあこがれの存在となることができました。

熊日新聞、読売新聞など多くの報道機関が中学生の取組を紹介してくれました。

復活みこし 鹿北中生担ぐ

みこし復活に向け、北勢會の才田憲吉初代会長（左端）らと練習する鹿北中の3年生＝山鹿市

17、18日 山鹿市「かほくまつり」

10年ぶり ＯＢら熱血指導

山鹿市鹿北町で17、18日に開催される（第39回）かほくまつり」で、名物のみこしが10年ぶりに復活する。鹿北中の3年生27人が担ぎ手の中心となり、秋の一大行事を盛り上げる。

みこしは1988年、地元の若者の担ぎ手団体「北勢會」が旧鹿北町の助成金や寄付金計147万円で製作。高さ2・2メートルで金色の町章が入る。会員の高齢化で第29回を最後に途絶え、鹿本市の加藤神社に保管されていた。

今年の祭りの企画会議で、かつてのみこし奉納を知った鹿北中の生徒と教諭が担ぎたいと提案。10月以降、北勢會OBから担ぎ方を教わってきた。

練習中は「足がそろっていない」「なっていない」と厳しい声が飛ぶなどOBの指導は真剣そのもの。3年の太田黒天真さんは「（指導するOBの姿が）熱くて格好いい。自分たちも気合を入れなきゃ」と気を引き締める。

東京の三社祭でみこしを担いだ経験もある才田憲吉初代会長（80）は「やるからには格好良く、感動を味わってほしい。自分たちも血が騒ぐ」と本番の出来に期待を寄せる。

みこし奉納は17日午前10時と午後1時の2回、鹿北グラウンド特設舞台で。鹿北市民センター☎0968（32）3111。（河内正一郎）

地域との新たな関係

地域の方々との会議や意見交換は、合意形成に至る過程で、厳しいやりとりや要求があり真剣なものとなります。これは地域の方々が、中学生を「お客さん」としてではなく、「地域づくりのパートナー」として受け入れてくださったことによります。この関係性は今までになかった地域と学校の姿といえます。そして生徒は、ひとつの目的を達成するために、甘えとか、妥協が許されない、社会の厳しさの中に身を置くこととなります。この厳しさこそが、社会の接点での学びの「本質」ではないかと考えています。地域の方々が遠慮せず、生徒に接し、鍛えてくださる。そんな協働関係を築けたことが、何よりの財産となりました。

１２月１４日（金）午後、３年生全員で作成したかほくまつりの写真や感想がつづられた巨大な掲示物を持参し、鹿北市民センターにまつりのお礼にうかがいました。市民センター職員の方々からは、地域の方々から、中学生の取組や活動に元気をもらった、感動したとの声が寄せられているとの言葉をいただきました。また、かほくまつりで中学生が頑張ってくれたことへの感謝状までいただきました。

感謝状

鹿北中学校三年生　様

みなさんは第三十九回かほくまつりにおいてのぼり旗直やライン引きや十年ぶりの御輿復活などまつりを盛り上げるため大いに尽力されました

若いあの郷土愛にみんなが感動しました

よって今日までの労を讃え心より感謝の意を表します

ありがとう

平成三十年十二月十二日

かほくまつり振興会

会長　野中貞臣

「茶っぷりん」製作

鹿北の代表的な農産物である「お茶」と「栗」を使ったスイーツを生徒が考案し、地元の「ゆ～かむ」さんとのコラボレーションでの試作品が完成したので、３年生全員で試食会をしました。甘さ控えめですが口の中に抹茶の香りが広がります。そして、栗を食べると今度は栗の甘さが広がってきます。鹿北の秋を感じさせてくれるスイーツの完成に笑顔が広がります。これから名前を決めたり、いくらで販売するかなどの話し合いを行っていくことになりますが、どんな名前になるのか、とても楽しみです。

鹿北中 "謹製"

「茶っぷりん」できた！

３年生 山鹿市の業者と開発

９、10日「ゆーかむ」で販売

熊本日日新聞　平成３１年２月３日（日）掲載

文部科学大臣表彰

１２月３日（月）東京の文部科学省にて、地域学校協働活動における鹿北中学校の取組が評価され、**「かほくまつりサポーター会議」**が文部科学大臣表彰を受賞しました。

この賞は鹿北中学校が受賞したというよりも、昨年度の卒業生も含め、鹿北町のためにとの熱い思いを持ったすべての方々に対する賞だと思っています。

７日（金）は、生徒会長が代表して山鹿市長を表敬訪問し、受賞の報告をさせていただきました。